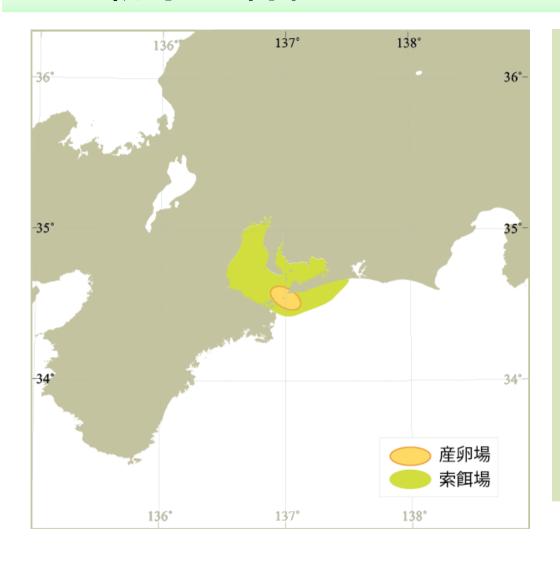


イカナゴ伊勢・三河湾系群令和5年度資源評価結果

生物学的特性

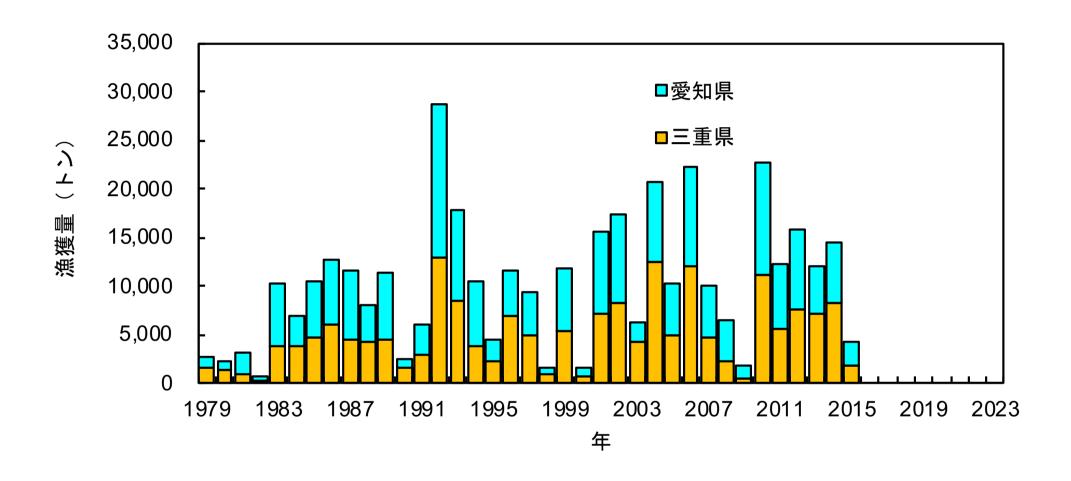


生物学的特性

- 寿命:2~3歳
- 成熟開始年齢:1歳(100%)
- 産卵期・産卵場:12月~翌年1月、 伊勢湾の湾口部付近から渥美外 海の礫砂の海底
- 食性:主に動物プランクトン (カイアシ類が主体、ヨコエビ 類、ヤムシ類、アミ類)、伊勢 湾では加えて植物プランクトン (珪藻類など)
- 捕食者:仔稚魚期には多様な浮 魚類やヤムシ類、未成魚および 成魚期にはヒラメ等の底魚類

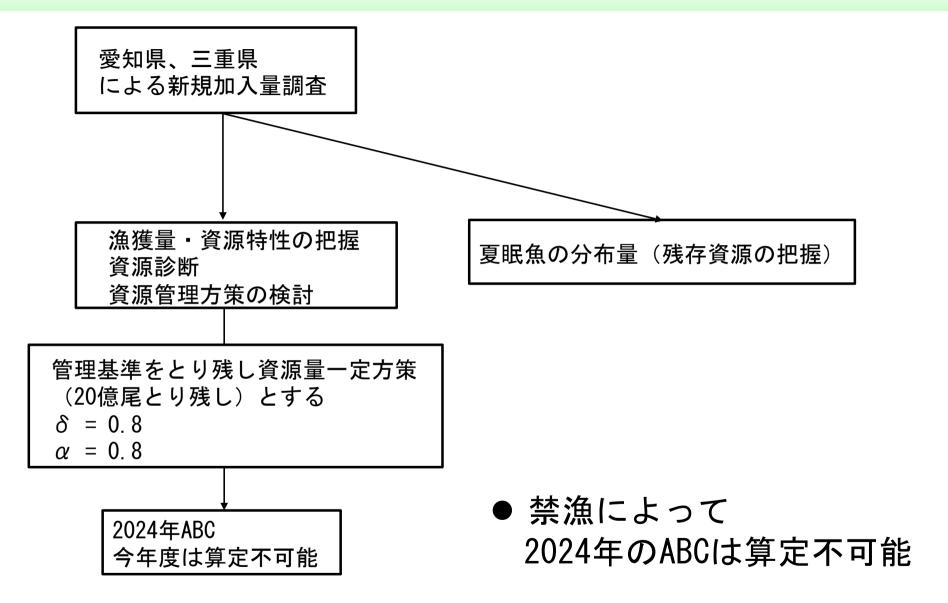
- 漁獲対象は、稚魚(シラス:2~3月)と幼魚(4~5月)
- 漁獲量の90%以上が、2~3月の漁期開始後の約2週間で 水揚げされる

漁獲の動向



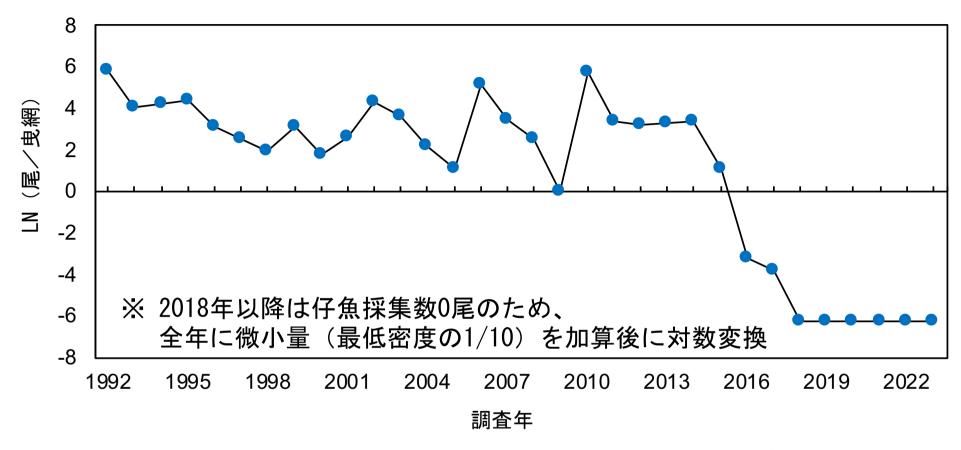
- 漁獲のあった年は主に船びき網によって漁獲されていた
- 2016~2023年は禁漁(漁業者による自主的措置)のため 漁獲量は0トン

資源評価の流れ



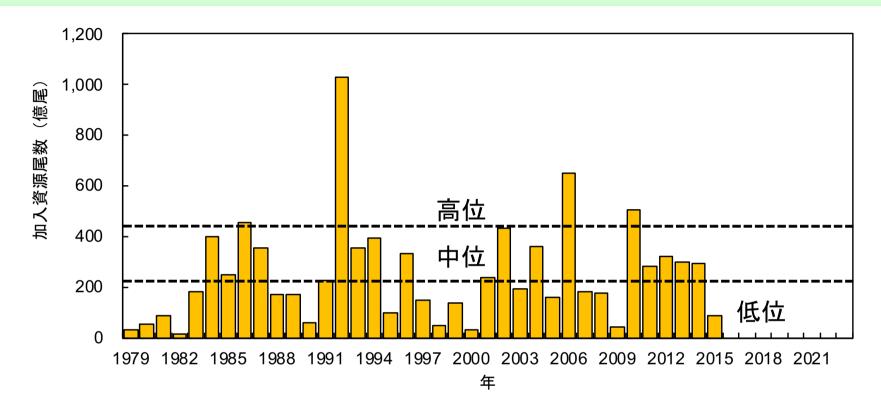
※ 20億尾以上をとり残すためには、① (DeLury法により)加入量を推定する、 ②漁期中のCPUEをモニターし、残り20億尾以上になる日を予測し禁漁日を設定する δ と α の値 (0.8) は直近で最後にABCを算定した2016年度の標準値 4

資源の動向①



- 加入量調査結果を用い、資源量指標値を算出し資源の水準と 動向を判断
- 2015~2017年は減少傾向が継続
- 2018年以降の加入量調査で仔稚魚は採集されず
- 2023年の水準は「低位」、動向は「横ばい」
- ※ 資源量指標値はイカナゴ仔稚魚の平均分布密度の対数値(LN(尾/曳網))

資源の動向②



※水準区分 低位/中位:加入資源尾数226億尾、高位/中位:加入資源尾数439億尾 (突出して多かった1992年を除いた加入資源尾数の最大値と最小値を三等分して算出)

- 2015年までは加入資源尾数はDeLuryの方法で推定
- 14億尾(1982年) ~1,028億尾(1992年)で70倍以上変動
- 2015年は89億尾で水準は「低位」、動向は「減少」
- 2016~2023年の加入資源尾数は禁漁のためこの方法では 推定不可能

資源評価のまとめ

- 資源水準は「低位」、動向は「横ばい」
- 2016~2023年は加入量調査での仔稚魚採集数が極端に少なく (2018~2023年はゼロ)禁漁とされたため、加入資源尾数は 推定不可能であった

2024年ABC

管理基準	Target/Limit	2024年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値(現状のF値から の増減%)
Bfishable	Target	-	_	_
	Limit		_	0

- 2024年ABCは算定不可能
- 親魚量20億尾以上をとり残す管理方策は維持していく必要がある